

◆4番（松井英雄議員） 4番、公明党長野市議員団、松井英雄でございます。

長野県では、思いやり乗せて信濃路咲く笑顔のスローガンで年末の交通安全県民運動として取り組んでいます。全国的に登下校中の子供たちを巻き込んだ交通事故、高齢者の事故が後を絶たない現状があります。県内でも先月、登校中に横断歩道を渡っていた児童がひかれけがをする事故もあることから、長野市における交通事故対策について伺いたします。

初めに、今年度実施された通学路の合同点検の現況と課題について伺います。

長野市においては、通学路交通安全プログラムに基づき、児童の通学路の合同点検を実施されておりますが、この通学路の合同点検をより実効性がある取組にするためには、教育委員会が主体となって事業を推進することが重要であると考えます。

そこで、改めて、本年度実施された合同点検の学校数、改善要望箇所に対する実施率など、現状と課題について御所見をお伺いいたします。

また、これから積雪の時期になり、なかなか登校時に通学路の歩道まで雪かきをすることが困難で、子供たちが一時的に車道にはみ出て通学することも予想されます。そのようなことから、PTA、地域、学校と連携し、長野市かんじき隊を結成し、かんじきの配布や通学前にかんじきを履いて歩き、通学歩道を確保するなど、長野市の冬の風物として、かんじき、陣がさ、菅がさで通学路を歩く、かんじき隊を結成してはと提案しますが、御所見をお伺いいたします。

（4番 松井英雄議員 質問席へ移動）

◎教育次長（松本孝生） 私からは、通学路の合同点検についてお答えいたします。

通学路交通安全プログラムに基づく通学路の合同点検は、登下校中の児童が死傷する事故が全国で相次ぎ発生したことを受け、教育委員会が事務局となり、警察署及び各道路管理者と合同で、毎年学校から挙げられた通学路の危険箇所や対策要望について、学校関係者を交え点検を行うものでございます。

初めて実施した平成24年度には、各学校から報告された危険箇所121か所の点検を、以後、毎年新規に学校から報告された危険箇所の点検を行い、今年度につきましては、3校に係る8か所について点検を行いました。この点検に基づき、通学路のカラー舗装やフェンスの設置など、これまでに作成した対策案は227件で、うち対策済み又は対策中は171件、75.3パーセントとなっております。しかしながら、例えば鉄道や国道、市道とが交錯する箇所や道路形状の改良を伴う箇所などについては、大規模な改修が必要になるため、直ちに改善に結び付けることが難しいという課題もございます。

合同点検は複数の施設管理者が一堂に会して現地を確認、情報共有し、共に検討することで、より円滑で速やかな改善につなげる機会と考えております。今後も、合同点検の実施を通してそれぞれの施設管理者が互いに連携して知恵を絞り、ハード面のみならず、啓発を含めたソフト面での対応も検討し、地域を含めた関係者とも協力しながら通学路の安全確保に努めてまいります。

◎教育次長（熊谷久仁彦） 通学路の除雪に係る地域の協力についてお答えいたします。

これから積雪の時期となりますが、子供たちのために地域の皆様、保護者が進んで除雪に協力してく

ださっていることに大変感謝しております。

学校教職員も、学校敷地及び学校周辺の通学路の除雪を行っておりますが、全ての通学路の除雪にまでは手が回らない現状がありますので、今後とも、地域の皆様、保護者の方の御協力を得て、児童・生徒の安全確保に努めてまいりたいと思います。

議員から御提案いただいた長野市かんじき隊の結成につきましては、子供たちの安全な登校や地域コミュニティの推進の面から、大変参考になる御意見であると考えております。校長会等で伝え、学校ごとに設置された地域の方やPTAが参画する運営委員会等で紹介をしていきたいと考えております。今回の御提案のように、市民の皆様全体で子供たちの安全・安心な通学路確保に向け御協力いただけますことを願っているところでございます。

◆4番（松井英雄議員） ありがとうございます。

合同点検につきましては、やっつけていただいているんですが、道路の拡幅なんていうことはなかなか進まない現状があるわけですが、朝の時間帯は、とかく通勤で急ぐ車が多くて飛ばすということもあるので、そのドライバーの死角によって速度を上げないような仕掛けとか、そのようなことも検討しながら通学路の確保をしていただきたいと思いますし、また、かんじき隊におきましては、目をつぶって、ちょっと風景を思い浮かべていただければ非常にいいものだなというふうに思っておりますので、是非ともよろしくをお願いします。

子供に対する交通安全教育の取組について伺います。

交通ルールを遵守していても、事故は発生し巻き込まれてしまうなど、交通事故は至るところで起こり得る危険性があると言わざるを得ません。特に自転車については、被害者だけでなく、加害者にもなり得る危険性を秘めており、子供に対する交通安全教育の在り方も、実情に即した対応を常に考えていくことが重要であると考えます。

そこで、子供に対する交通安全教育の取組について御所見をお伺いいたします。

◎地域・市民生活部長（竹内好春） 子供に対する交通安全教育についてお答えいたします。

長野市内における自転車事故の年齢別発生状況では高校生が最も多く、その原因別では約6割に自転車側の違反が認められる他、被害者だけではなく、加害者となる事故も多く発生しております。他県におきましては、高額な損害賠償金が命ぜられる事故も発生しており、これから高校生へと成長していく子供への交通安全教育は極めて重要であると考えております。

市内小学校で年間に約30回、3,000人を超える児童に対して行っている交通安全教育講師による交通安全教室では、交通ルールを守ることの重要性はもとより、加害者となることもある自転車の危険行為や損害賠償事例などについても分かりやすく説明する交通安全教育を行っております。また、季別の交通安全運動では、警察、交通安全協会等と連携し、市内中学校、高校において安全利用の指導と啓発を行っております。その他、平成28年度からはスタントマンによる事故を再現しながら視覚から訴えるスクエアドストレイト方式を取り入れた交通安全教室を新たに実施し、本年度、市内中学校2校で開催いたしました。

今後とも、子供に対する交通安全教育の一層の推進に努めてまいりたいと考えております。

◆4番（松井英雄議員） 引き続きよろしくお願ひいたします。

続きまして、高齢ドライバーの事故を防ぐための取組について伺います。

長野市の交通事故の発生状況について、本年11月30日現在で死者数は8名となっています。8名のうち、65歳以上の高齢者が4名となっており、高齢者の死者数は様々な取組により減少傾向にあるものの、高齢者の死者数が全体から見て多い状況であることが分かります。

そこで、長野市の高齢ドライバーの事故を防ぐための取組について御所見をお伺ひいたします。

また、全国的な高齢者の事故の状況により、警察による高齢ドライバーの免許自主返納が各地で広がりを見せている、との報道もありますが、免許返納で運転を断念する人へのケアも重要です。

長野市では、高齢者が免許を自主返納しやすい環境整備に向けて取組をさせていただいているところですが、自主返納に至らない方のお話をお伺ひすると、好きな時間に移動し行きたい場所で降りる、バス停から目的地までは足が痛く、歩く気にならない、などお聞きします。そのような声から、既に行っているバス利用の方と、もう一方で、先の声にあるようにタクシー利用と、双方の支援が必要と考えます。タクシー会社では、運転経歴を見せ1割引になる会社もあるようですが、対象となる利用者にこのようなサービスを市としても周知すべきと考えますが、御所見をお伺ひいたします。

◎地域・市民生活部長（竹内好春） まず、高齢ドライバーの事故防止対策についてお答えいたします。

65歳以上の高齢ドライバーによる事故死者は過去3年間で16人となっており、昨年の発生件数は約320件を数え、全体の事故の約2割を占めている状況でございます。本年は死者8名中、高齢ドライバーによる死者は2名ではありますが、昨年中は、単独で道路から転落したり対向車線へ飛び出すという事故が多発しており、高齢ドライバー対策が重要な課題となっております。

市といたしましては、高齢者事故の防止対策として、各地区の老人クラブなどで実施する各種の会合あるいはお茶のみサロン等の機会に、交通安全教育講師を派遣いたしまして交通安全教育を徹底しているところでございます。まずは加齢に伴う身体機能低下を自覚していただき、より一層の安全運転に努めていただくことと、仮に運転に不安を感じるようになった際には運転免許の自主返納と公共交通機関への乗り換えを呼び掛けているところでございます。

本年3月、道路交通法の一部改正が行われまして、高齢ドライバー対策が強化されましたが、その結果、本市の運転免許の自主返納者数は、10月末現在で昨年1年間の1,030件を超える1,110件となっておりますので、おでかけパスポートの周知と利用促進も図っていかなくてはならないと考えております。

次に、タクシー運賃の1割引制度の周知についてお答えいたします。

議員御指摘のとおり、現在、長野県タクシー協会に加盟するタクシー各社では、運転経歴証明書を乗車の際提示いただくと、運賃の1割引が受けられる制度がございます。また、長野県個人タクシー協会に加盟する個人タクシー事業主においても同様のサービスを行っていると同様のところでもあります。返納しやすい環境を整え、運転免許証の自主返納を促し、高齢ドライバーの事故防止を図りながら、返納した方の交通の利便性を確保するため、各協会加盟のタクシー会社各社、個人が企業努力で行っていただいているものでございます。

市といたしましては、返納後の高齢者の足として利用促進が図られるよう、運転免許証返納の際の運転経歴証明書の取得やタクシーの運賃割引制度について、市のホームページや安全教室等で更なる周知徹底に努めてまいりたいと考えております。

◆4番（松井英雄議員） 周知徹底、ありがとうございます。

私も大型免許を持っているんですけども、50歳になりまして、深視力というんですか、そこがかなり弱くなったなというのを感じまして、右折するときに対向車が来ても、あとこのくらいの距離だから大丈夫と想着いても、ぶつかりそうになるというのが高齢者には多いのかなというふうに思っています。また、道路を横断する際にも、その辺の深視力というのが弱くなってきて、そういう事故が多いかなというふうに思っていますので、その辺もまた様々な状況の中でお話いただければと思います。

続きまして、篠ノ井・松代間の公共交通についてお伺いします。

9月21日に、篠ノ井地区住民自治協議会、松代地区住民自治協議会で、篠ノ井・松代地区の公共交通の在り方再検討の要望書が市長に手渡されました。要望に当たっては、望月議員、手塚議員、黒沢議員、私が紹介議員となっていますが、要望のときに話す機会がなかったことから質問させていただきます。

要望の内容は、地域循環バス篠ノ井・松代ぐるりん号の新設です。現在、篠ノ井・松代間のバスは平日のみで、篠ノ井発が3便、松代发が4便のみであり、主に朝夕の通勤通学のためのダイヤとなっています。松代においては、言わずと知れた歴史のまちであり、篠ノ井は茶臼山エリア、オリンピックスタジアム、Uスタジアムなどがあり、両地区を合わせ観光パッケージなどで、もっと市内外に売り出すべきと考えます。

そのような中、公共交通の確保は必須です。市長への要望の際、住民自治協議会にニーズなどの調査を依頼されましたが、観光客などを考えると、行政が様々なビッグデータを利用し、調査あるいは実証実験をするなど支援が必要と考えます。篠ノ井・松代間の公共交通の在り方についての考え、今後の取組について御所見をお伺いいたします。

◎都市整備部長（上平敏久） 現在、篠ノ井地区と松代地区をつなぐバス路線といたしましては、議員御指摘の松代篠ノ井線の1路線のみが運行しております。この路線は、従来アルピコ交通株式会社が運行していましたが、利用者が少なく運行が困難となったものを、その必要性に配慮し、市が赤字を補填してアルピコ交通に運行をお願いしている廃止路線代替バスであります。

さきに頂いた御要望は、この路線の代わりに新たに3本の路線を新設し、両地区をつなぐというものでございました。市といたしましては、廃止路線代替バスへ移行した経緯から、地域の公共交通を守るためには地域の皆様の積極的な関与が不可欠であり、どのバス停から、誰が、いつ、何のために、どこへ行くのかといった小さな個別のニーズを積み上げていかない限り、バスを走らせてみたものの、誰も乗っていないという事態を招きかねないと考えております。

こうした考えの下、今回の御要望を地域の皆様の、乗って残すという意識を育むきっかけとして、地域住民の皆様にご喜んでもいただける持続可能な公共交通を構築するモデルケースの一つとしてまいりたいと考えております。その進め方といたしましては、初回の検討会を年内に開催することとしており、まずは現状の松代篠ノ井線や篠ノ井ぐるりん号の利用実態を分析し、私どもと一緒に検討していただける住民自治協議会の代表者の皆様方と課題や情報、認識を共有することから始めてまいりたいと考えております。

検討に当たりましては、市が提供できる観光や日常の移動状況など、データを必要に応じてお示しするものはもちろんのこと、市と住民の皆様との適切な役割分担に基づいて、ニーズ等の調査を行うこと

も視野に入れながら、それぞれの地域の皆様にとって必要な移動の足の確保ができるよう努めてまいります。

◆4番（松井英雄議員） もちろんバスに誰も乗ってなくて、それをやってくれと言うつもりはございません。この要望があったぐるりん号新設に当たっては十分な準備をしていただいて、先ほど住民の方の地域のニーズの調査もそうですし、また、観光客に来ていただけるとすれば、そのパッケージ、あるいは信州ナビなどで検索した際に、ぐるりん号がそこに表示されるなど、そういった部分をいろいろ考えていただいて、前向きに実証実験等に向けて御協力いただければと思います。

以上で終わります。